

## Support for Woman Doctors ～私からあなたへ～

井原 弥子（旧姓 楠）先生【広島県 28期】

勤務先: 広島県 健康指導医

お子さん (9歳、7歳)



広島城

広島県28期の井原(旧姓 楠)弥子と申します。私は卒後6年目で初期研修病院で知り合った他大学出身医師の夫と結婚しました。当時夫は大学院生、私は地域に勤務しており週末婚の状態でした。幸いなことにすぐに長女を妊娠。当時は何の根拠もなく出産直前まで何でも頑張るぞ、とっていました。

そんな矢先、切迫流産になってしまい急な自宅安静が必要となりました。赴任先から車で1時間の実家でトイレ以外はずっと安静の生活でした。赴任先の先生方はもちろん、県内様々な地域にいる卒業生やその病院の先生方が代わる代わる当直応援に来て地域医療を守ってくださいました。感謝と申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

妊娠も週数を重ね、療養後は当直と内視鏡検査免除で復帰しました。「だいぶお腹が大きくなってきたね」「幸せねえ」患者さんやスタッフの方々みなさんが毎日あたたかい言葉をかけてくださいました。それなのに私は、早く当直や内視鏡を再開させたい、これでは貢献できていない、迷惑ばかりかけている、などと考えていて素直に笑顔になれませんでした。

あるとき、事務職のスタッフさんが声をかけてくださいました。「先生は、お腹の赤ちゃんより仕事のことが気になるんじゃない。でも赤ちゃんの人生も一度きりなんよ。赤ちゃんを守れるのは先生だけなんよ。」私は、何かに殴られたかのような衝撃を受けました。両立とは私や家族の健康があって成り立つと気がつきました。思い切ってみなさんにサポートしていただく、その分今の自分にできることを頑張ろうと考えが変わりました。

産育休後は、育児短時間制度を利用して初期研修医時代を過ごした中核病院で復帰しました。当時、21期の岡本和子先生もおられ、先生は義務終了後でしたが育短勤務第1号として(私が2号)女性医師の勤務環境を開拓してくださっていました。仕事、子育て、家事の工夫など色々な相談に乗っていただきました。境遇を理解してもらえることが大きな心の支えでした。

復帰してすぐに第2子も授かりそのまた復帰後も育短勤務継続しました。勤務時間が約半分だったので残りの義務年限も2倍でしたが、身体的精神的に無理なく過ごせました。業務は外来診療、救急当番、産業医業務など、そのとき人手が足りない院内医療の谷間に入らせてもらいました。

今年度から下の子ども小学1年生になり育短制度も使えなくなりましたが、ちょうど別のご縁で広島県庁から声をかけていただき、4月からは県庁産業医として勤務しています。県庁内診療所もあるので半日白衣、半日ジャケットです。当直や休日夜間呼び出しがないのでありがたいです。産業医資格を取得した当時は、いや数年前でも、まさか今のよう働き方をするとは思っていませんでした。

みなさんも、出産育児に関わらず、もし何か困難に遭ったときには無理せずサポートしていただき、できることを頑張っていればきっと大丈夫と思います。もしかしたら今度は私が誰かのサポートできるかもしれない、なんて思いながら、私も少しずつでもできることを頑張りたいと思っています。

### 後輩へのメッセージ:

「必要なきは無理せず、感謝の気持ちをもって職場にサポートしてもらいましょう。」

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。

連絡先: 自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係

E-mail: [chisui@jichi.ac.jp](mailto:chisui@jichi.ac.jp)